Japanese language abstract of “LOW-BACK PAIN FOLLOWING SURGERY FOR LUMBAR DISC HERNIATION: A PROSPECTIVE STUDY”

椎間板ヘルニアに対する手術後の腰痛に関する前向き研究

背景：
腰椎椎間板ヘルニアはしばしば坐骨神経痛の原因となる。手術は坐骨神経痛を軽減するが、手術が腰痛の軽減に影響するかについてはわかっていない。この前向き研究の目的は、腰椎椎間板ヘルニアにともなう腰痛の治療としての、椎間板切除術の効果を評価することである。

方法：
1998 年から 2001 年にかけて、一椎間、片側の椎間板ヘルニアに対し手術を行った連続する 40 名の患者を対象とした。前半の 20 例（１群）には標準的な椎間板ヘルニア切除術を、後半の 20 例（２群）には内視鏡視下椎間板ヘルニア切除術を行った。椎間板腔の掻破は行っていない。全 40 名の患者を前向きに経過観察し、質問表を用いて臨床成績を評価した。平均経過観察期間は 40 ヶ月である。

結果：
40 名全ての患者が結果に満足していた。下肢痛は全患者においてすみやかに軽減し（一ヶ月以内に）、最終経過観察時まで軽減し続けた。下肢痛に関して 2 群間に有意差（P=0.39）はなかった。最終経過観察時において、腰痛の平均スコアの有意な減少を認めた（P=0.007）。

結論：
坐骨神経痛を軽減するための椎間板ヘルニア切除によって、坐骨神経痛と腰痛がすみやかに軽減した。この研究によって得られた所見は、椎間板ヘルニアが腰痛の原因である可能性を示唆する。